

## 第2回東京湾海の環境再生賞の受賞者及び授賞式について

東京湾海環境再生賞とは、東京湾の環境に係る普及啓発、地域社会の活性化、青少年の育成等に取り組み東京湾の環境や それに係る社会貢献の実績と成果がある市民団体や民間団体等の功績を称えるもので、昨年設立されました。賞には、「国土交通大臣賞」と「みなと総合研究財団理事長賞」があり今年以下が受賞しました。

- ・国土交通大臣賞「ハマの海を想う会」
- ・みなと総合研究財団理事長賞 「マルハニチロ株式会社」「たてやま海辺の鑑定団」

当該賞は、放送大学の來生学長を委員長として、東京湾に詳しい関係港湾管理者等で構成された審査委員会で厳正に審査された結果、多数の応募者の中から決定されたものです。

授賞式は、去る10月20日に横浜で開催の東京湾大感謝祭の開会式の中、日本テレビの榎太一アナウンサーの司会進行で、秋晴れの空のもと、大勢の観客に見守られ盛大に開催されました。



国土交通大臣賞受賞の「ハマの海を想う会」は、「もっと遊ぼうハマの海」をスローガンに水辺での市民活動を通じて次世代を担う子供たちに海遊びへの興味を促し、海域環境再生の知識や技術を伝承することを目的に活動されている団体です。

今回の受賞は、子供たちを交えた環境美化活動や生物観察を通じて東京湾の環境の保全や再生に関して大きな貢献があったものと認められたものです。



ハマの海を想う会  
吉野生也 様(写真中央)  
池田凧 様(中学生)(写真右)  
国土交通大臣政務官  
阿達雅志 様(写真左)



副賞の記念盾

みなと総合研究財団理事長賞は今回2団体の受賞となりました。

まず、「マルハニチロ株式会社」は、東京湾UMIプロジェクトに参画し、水質浄化や生物多様性、炭素固定の観点から主にアマモ場再生に積極的に取り組んでいる団体です。

今回の受賞は、アマモ場再生を通じて、多様なNPO団体と協力しながら、ブルーカーボンの啓蒙普及に尽力され、東京湾の環境保全に寄与したことが認められたものです。



(写真右から)マルハニチロ(株) 佐藤寛之様、  
坂本透様、みなと総研 山縣宣彦



(写真中央)たてやま海辺の鑑定団  
竹内聖一様

次に同じく理事長賞受賞の「NPO法人たてやま・海辺の鑑定団」は、沖ノ島について考える検討会議に参画し、主に沖ノ島の自然資源を次世代に繋ぐための様々な実践活動をしている団体です。

今回の受賞は、沖ノ島周辺という限られたエリアでの活動であるが、アマモ場再生を中心とした地元での精力的な活動は、官民様々な団体を巻き込んだ仕掛けづくりと相まって、特筆すべきものとして評価されたものです。

(担当：みなと総合研究財団 菊池一夫)